

台湾の自治体「宝山郷」との交流に向けて

～菊陽町長と宝山郷長がオンラインで会談～



総合政策課 ☎(232)2112

町では、昨年11月にTSMCの進出が決定して以来、台湾から菊陽町に安心して来ていただきたいとの思いから、町全体で令和6年末の工場稼働を歓迎できるように、機運の醸成に取り組んでいます。

その取り組みの一つとして、町民の皆さんに台湾のことをもっと知っていただき、これまでよりも身近に感じていただくために、新竹県の「宝山郷^{ほうざんきやう}」との友好交流の準備を進めています。

この宝山郷のことは、台湾の総領事に当たる台北駐福岡弁事処の陳処長から、3月の表敬訪問の際にご紹介いただきました。

宝山郷はTSMCの本社がある新竹市の南側に隣接していて、新竹科学園区(新竹サイエンスパーク)という巨大な工業団地が新竹市にまたがるように整備されています。また、TSMCの工場が立地し新しい住宅地が増えている点や、農業が盛んで自然の豊かさや田園風景を残している点など、菊陽町との共通点が多数あります。

このような縁から、これから幅広い分野での交流につながるように、9月13日に後藤町長と宝山郷の邱坤桶郷長がオンラインで会談し、町の紹介や意見交換などを行いました。



※宝山郷・・・「郷」は日本の町・村に相当し、人口約1万5千人です。もともと農業が盛んで、柑橘類、タケノコ、オリーブなどが生産されていて、中でも茶花(台湾ではサザンカと読む)は台湾一の品質とされています。近年は、産業の中心は新竹科学園区のハイテク産業となっていますが、今も農産物の収穫時期に合わせて伝統的な民族衣装に身を包んだ祭りや食のイベントが行われています。また、2つの大きなダムをはじめ、観光やレジャーなどに力を入れている町です。

会談の内容

今回の会談は、冒頭、お互いの言葉で挨拶や自己紹介を交わし、和やかな雰囲気の中で行われました。後藤町長は、「将来、小中学校の交流や職業団体の交流、祭りやイベントでの双方のPRなどを考えている。これから一歩ずつ信頼関係を築いていこう。」と述べました。

これに対して、邱郷長は「素晴らしい提案に感謝する。必要な予算を確保しているので、今後、菊陽町を訪問し、具体的に交流について話し合おう。」と応じられました。

会談の最後に、新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着いたら、お互いの町を訪問し、友情と信頼を深めようと再会の約束を交わされました。



オンライン会談の様子



みんなで友好的のOKポーズ

日本経済の安全保障を担う

～TSMCの進出と伸びる菊陽～ vol.5



商工振興課 ☎(232)2165

出典：Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd.

JASMが知事・町長を表敬訪問

後藤町長、熊本県の蒲島知事、熊本大学の小川学長は9月5日、JASMのリュオ会長と堀田社長の表敬訪問を受けました。

【JASM 代表取締役会長 ワイエイチ・リュオ氏のコメント】

皆さまのサポートのお陰で工場建設が順調に進んでいます。ご尽力いただいている熊本県と菊陽町の皆さまに心より感謝申し上げます。

私どもは、半導体人材やパートナーが熊本に集まり、地域における半導体エコシステムが構築できる

よう、最善を尽くします。それと同時に、地元の皆様に水資源の保存を始めとする環境の保護を約束します。JASMがビジネスとサステナビリティの両輪で成功することを確認しています。

【JASM 取締役社長 堀田祐一氏のコメント】

工場建設など、あらゆる面からサポートしていただき、大変心強く存じます。来年の4月には約100名の新卒社員が入社する予定です。熊本の人材に大変期待をしています。

JASMは、熊本の地に根付き、世界の半導体需要に対応できる工場になるよう、精一杯取り組んでまいります。



左から、後藤町長、リュオ会長、蒲島知事、堀田社長、小川学長

菊陽町半導体産業企業誘致推進本部・プロジェクトチーム第5回合同会議を開催

8月30日に開催した会議で、今後取り組むべき施策に迅速に取り組むため、「外国人受入体制を整備する部会」、「地下水涵養に係る部会」の2つの部会を新たに設置することを決定しました。

「菊陽町の未来を考える講演会」を開催しました

9月1日に菊陽町図書館ホールで、肥後銀行の笠原慶久^{よしひさ}頭取を講師に迎え、「菊陽町の未来を考える講演会」を開催し、区・自治会長や町内の経済団体関係者など、会場満員の250人が参加しました。

笠原頭取は、「熊本県・菊陽町の現状と未来」と題して、県と町の人口構造や経済構造を踏まえ、TSMC進出を契機とした町の未来について講演し、参加者にとって今後のまちづくりを考える機会となりました。

